

確かな学力の育成

～「楽しい」「できる」「わかる」「力がついている」を実感できる授業実践～

I 研究の内容

- 1 確かな学力の定着・向上の土台となる学級力向上の取り組み
 - ・学級力向上プロジェクトの充実。(各学期1回 計3回)
- 2 学力学習状況調査分析に基づいた授業改善
 - ・知識及び技能の活用を図る学習活動……活用学習(一人一実践の取り組み)
 - ・単元を通じた授業リフレクション
(ワークシート分析, 学習感想, 教師の見取り等による授業の振り返り)
- 3 家庭学習の充実
 - ・授業とリンクした家庭学習の取り組み
 - ・教師の家庭学習指導力の向上
- 4 今日的な課題に向けた研修
 - ・特別支援や保健(アレルギーなど)に関する研修

II 成果と課題

- 1 確かな学力の定着・向上の土台となる学級力向上の取り組みについて
 - ・学級力向上プロジェクトを全クラスで取り組み, 実践の交流をしたり, 指導主事を招聘して授業研究を行ったりした。授業実践や研究会などを通して個々の教師が学級力向上の取り組みについて振り返り, 改善を行うことができた。
 - ・児童一人ひとりが自分の学級を見つめ直し, 良さと課題を見出す契機となった。自分の学級をもっと良くしていこうという子ども主体の学級づくりを進めることができた。また, 継続指導(各学期に実施)の効果と自分を見つめるPDCAサイクルの取り組みにより, 児童は, 適切な目標設定や取り組みを考えることができるようになってきた。
 - ・児童の発達の段階に合わせて, アンケートの方法やグラフの表示, 話し合いの仕方など, 工夫していく必要がある。
- 2 学力学習状況調査分析に基づいた授業改善について
 - ・一人一実践の取り組みとして, 全担任が, 知識及び技能の活用を図る学習活動(活用学習)を実践した。指導主事を招聘しての授業研究やブロック交流研究会での授業公開, 校内の実践交流などを通し, 授業改善を進めることができた。
 - ・授業中の児童の実際の姿やワークシート・学習感想の分析などによる授業の振り返りを行った。授業リフレクション, 自己リフレクションなどを通して, 授業改善を図ることができた。また, 児童にとって「楽しい, できる, 分かる,

力がついている」授業実践につなげることができた。

- ・既習内容の可視化やワークシートの工夫など児童の思考の手だてとなる支援が大変有効であった。
- ・児童一人ひとりの思考を認める学級風土が、学習への意欲化につながった。また、教師による適切な評価、支援により意欲を引き出すことができた。
- ・学力学習状況調査や学力把握調査などの分析を全職員で共有し、全学年でそれに基づいた取り組み（意図的・計画的な補充的学習の充実など）を進めることができた。
- ・活用学習の教育課程の位置づけだけでなく、多様な解決方法ができる単元を各学年の重点単元的として取り組んだり、活用学習に必要な力を系統的に身に付けさせたりする取り組みも必要である。

3 家庭学習の充実について

- ・学年ごと児童の実態及び発達段階にあわせた家庭学習の充実に取り組んだ。また、校内研で家庭学習についての内容や取り組み方法などの実践交流を行い、学級担任の家庭学習指導力の向上と児童の意欲の向上につなげることができた。
- ・授業→家庭学習→朝学習の効果的なサイクルを念頭において実践を行うことにより、授業とリンクした家庭学習の取り組みを進めることができた。授業での課題を家庭で取り組む児童の姿が見られるようになった。
- ・教師の声かけ、評価、自主学習の取り組みの紹介などが大変有効であった。
- ・家庭学習の充実には、保護者の理解・協力が不可欠である。今後も学年通信・学年懇談会等を通して、学習習慣の形成と学習に意欲的に取り組む態度を育てていきたい。

4 今日的な課題に向けた研修について

- ・特別支援の研修では、特別な支援を要する児童の対応についての研修を行った。スクールカウンセラーに質問し、具体的な方法などを学べる機会となった。支援を必要とする児童についての理解が深められ、児童に対する指導・支援・配慮などに生かすことができた。
- ・保健（アレルギーなど）に関する研修では、食物アレルギーについての学習とアレルギーによる事故を想定したロールプレイングを行った。実際にどのように対応したらよいか、研修が進められた。全職員が共通理解することができ、日ごろ曖昧になっている対応を確認しながら考え直す良い機会となった。

III 成果物

- 1 学級力向上プロジェクトの実践記録など（全学年）
- 2 活用学習の指導案・ワークシート・実践記録・授業改善案など（全学年）
- 3 家庭学習の実践記録（全学年）

（研究主任 竹川 俊之）